問題児たちが異世界から来るそうですよ？サンタ？いやサタンだから

門倉

注意事項

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

イジメられていた少年が箱庭に来て成長する話し・・・　な訳無い

目　次

プロローグって奴だな、おい ―― 1
Ｙｅｓ！ウサギが呼びました（多分白夜叉のおかげ）
やっぱり尻尾だな、うん ―― 6
ジン君はパシリなのか？はい ―― 13
思春期の迷子程面倒な物はない、そう ―― 18
星霊は見た目によらず強い、確かに 25
耀と始めて喋った・・・・ 頑張る 35

プロローグって奴だな、おい

主人公ｓｉｅｄ

『暇過ぎてやる事が無い、夢小説も読んだしー三年で受験だからって勉強なんてやってられないし』

てか、問題児達が異世界から来るそうですよの世界に転成したいとゆうかさして下さい、学校ではイジメられてるしー、友達居ないしー人生をリセットしたいよ〜。

中１の時に調子のらなければ、イジメられなかったのになー

意識ブラックアウト!!

『神様どうか俺を転成さして下さいお願いしますよー、５円あげるｋｉ・・・』

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＝＝＝

『ん?・ここ何処だ?・』

天空に居る夕焼けが凄く綺麗だ

『は!?・まさか、神様が俺を転成さして下さるのか?・』

『そうじゃぁ、そのとうりじゃぁ』

後ろから声が聞こえたので振りかえると・・・・

意識ブラックアウト！（２回目です）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

神様ｓｉｅｄ

『間違って神の姿で現れてしまったまぁ、ワシの姿を人間が見たらそれは死ぬじゃろうな』

にしても、灰になって消えるとはのう、人間って脆いのじゃぁな。

『まぁこうして居ても、始まらんからのう、ほれ生きかえれ少年よ』

ワシが一回手を叩くとあら不思議まるで、時間が戻った様に少年が生きかえるのじゃあ。

『ほら少年さっさと起きよ』

少年ｓｉｅｄ

『あれ?・俺神様を見ようとしたらいきなり、目の前にお花畑が見えてこっちに手を振っている老人が居たから、行こうとしたら目覚めたんだよね、多分』

もの凄く不思議に思って居ると、突然頭の中に声が聞こえる

『悪いの少年一回ワシを見ようとしたから、少年死んだのじゃあ』

!?見ようとしただけで死ぬってどうなの？

『実に人間は脆い様じゃあな、悪いが少年姿を見せずに会話を行なうが良いな？』

『多少、混乱しますがまぁ大丈夫ですよ、でその姿を見ただけで人が死ぬぐらい凄い神様がどんなご用件でございましょうか？』

は!?まさか転成したいって願いをかなねえて下さるのか？そのために俺を呼んだのかなるほど

『少年が考えている事は少し違うのじゃあが、まぁそんなようなものじゃな』

『つまり俺を転成さして下さるのですか？』

本当にこんな事ってあるんだな!?

超嬉しい何処の世界に転成さしてくれるのか凄く楽しみ！

『転成先は少年が勝手に考えて良いぞ、ただ単にワシの暇つぶしだしのそれに、決めるのも面倒だしの』

案外神様って適当なんだな、うん

『転成先は問題児達が異世界から来るそうですよの世界が良いです』

問題児が・・・・ 長くて面倒だから、問異来で良いか。まぁ取り敢えず問異来のレティシアが好きだからだな、うんあれは最高だよ本当。

『まぁようわからんが、その世界で良いのじゃあな、後能力を6個ほど決めて良いぞ』
　6個随分多いな、3個ぐらいだと思ってたまぁ多いに越したことは無いかさて何にしようかな・・・　決めた‼?
『1個目は、青のエクスシストのサタンの能力と2個目は、1個目の能力を完璧に使える心と体が欲しい』
『待っておれ』
　神様が手を叩くと俺の体から何かが溢れ出てくる、多分これがサタンの力なのだろうな、うん
『ありがとうね、で3個目はどんなに食っても太らない体質』
　これは、一番必要だ!!
『4個目は、絶対知識範囲が欲しい』
　これは、後に補足で説明して起きますよ。
『5個目は、トリコに出てくるノッキングを完璧に扱える様にして欲しいです』
　ノッキングは本当に格好良いと思う
『6個目は・・・』
　一番俺の変えなければならい事・・・
『どうしたのじゃあ、口籠って?』

『俺の体全てをスケダンの生徒会長のにしてくれ、いやしてくださいお願いします本当に・・・・』

土下座してたのんでる俺、この顔と体を本当にどうにかして欲しかったんだよね・・・・

『う、うむ分かった（確かに今の少年じゃあのう・・・・）髪の色は金髪じゃあなくて赤にしとくからのー』

そう、神様が言ったら俺の全てが変わって行く、身体だけでは無くて心まで持って行かれたような感覚に襲われた。

『うむ、生まれ変わった様じゃあのう、さてそろそろ行ってもらうぞあきて来たころだしのう』

そう、神が言うと俺の目の前に一通の手紙が落ちてくる・・・・ 結構綺麗な手紙だ、とゆうか産まれて初めて宅配物を貰った気がする・・・・ 俺ってさみしい奴だな。

『これを開けば良いんだな神よ』

神はそれを聞いて、頭の中で一言

『そうじゃあ』と言った

それを聞いた俺は直ぐに開けて中身を見た、そこに問異来の手紙の内容がそのまま書かれてあった・・・・

そして、それを確認した瞬間俺は大空にいた

Ｙｅｓ！ウサギが呼びました（多分白夜叉のおかげ）
やっぱり尻尾だな、うん

主人公ｓｉｅｄ

うん、凄く落ちてる手紙開いた瞬間引き摺り込まれるってこんな感じなんだな・・・・

黒ウサギ尻尾は貰ったぞ

にしても本当に、完全無欠の異世界だな。

あ、あれが箱庭か～でかいな・・・・

これ確か水の中に投げ出されるんだよな・・・・

『え、俺泳げねぞ・・・・』

てか、十六夜と飛鳥と耀は居るな

『ぎにゃああああああ‼？お、お嬢おおおおお‼？』

五月蝿いな猫

名前知らない振りしないといけないのか・・・・　大変だな

そんな事を思って居るとボチャン、と着水・・・・

俺泳げねぞ‼？

俺が溺れている間に問題児たちは陸に上がって文句を垂れていた‥‥

『し、信じられないわ！まさか問答無用で引き摺りこんだ挙句、空に放り出すなて！』

『右に同じだクソッタレ。場合によっちゃその場でゲームオーバーだぜコレ。石の中に呼び出された方がまだ親切だ』

いや、石の中は流石に無理があるぞ十六夜てか、話して無いで助けてくれよ‥‥ マジで

あ、足ついた‥‥

そして俺が陸に上がると耀が

『此処‥‥ 何処だろう？』

『さあな。まぁ、世界の果てぽいのが見えたし、何処ぞの大亀の背中じゃねえか？』

てか、よくあんな状況で見えたなこのチート野郎が‥‥

凄く変な感じがする服濡れると気持ち悪いな‥‥ あそこに居るのが黒ウサギか‥‥

そんな事を思って居ると

『まず間違いないだろうけど、一応確認しとくぞ。もしかしてお前達にも変な手紙が？』

『そうだけど、まず”オマエ”って呼び方を訂正して。

私は久遠飛鳥よ、以後気をつけて。それで、そこの猫を抱きかかえてる貴方は？』

俺一言も話して無いな‥‥

『……　春日部耀。以下同文』
　以下同文よく使うよな春日部って……
『そう。よろしい春日部さん。で野蛮で凶暴そうなそこの貴方は？』
　これ打つの大変なんだよな……
『高圧的な……（割愛）』
『そう。取扱説明書をくれたら考えてあげるわ、十六夜君』
　この取扱説明書って十六夜作ったのかな？
『ハハ、マジかよ。今度作っとくらから覚悟しとけよ、お嬢様』
『そう、じゃあお願い。でさっき溺れていたそこの赤髪の人わ？』
『俺の名前は谷郷　龍宜しく……　溺れてるのきずいてるんなら助けてくれよな……』
　本当何で助けてくれないんだよ……
『そうごめんなさい気が回らなくて谷郷くんで良いのね、宜しく』
　俺は十六夜の方を向いて一言
『男子同士仲良くやろうな……』
　確か、ジンくんと十六夜以外あんまり男子居ないからな
『ハハ、宜しくな谷郷』
『谷郷じゃあ無くて、龍で良いよ十六夜』

心からケラケラ笑う十六夜。
傲慢そうに顔を背ける久遠。
我関せず無関心を装う春日部。
瞑想している谷郷龍。
そんな彼らを物陰から見ていた黒ウサギは思った。
（うわぁ・・・・・・ なんか問題児ばっかりみたいですねえ、一人瞑想してますし）
彼らが協力する姿は全く想像できないと思う、黒ウサギだった。
＊
十六夜は苛立たしげに言う。
『で、呼び出されたはいいけどなんで誰もいねえんだよ。この状況だと招待に書かれてた箱庭とかいうものの説明する人間が現れるもんじゃねえのか？』
人間じゃあ無くてウサギなら居るけどな・・・・
『そうね。何の説明もないままでは動きようがないもの』
『・・・・・・・・。この状況に対して落ち着き過ぎているのもどうかと思うけど』
『春日部がそれを言うか・・・・』
（貴方もです‼？）
黒ウサギに突っ込まれた・・・・

『てか、そろそろ出て来てよね・・・・』
俺はそういいながら、黒ウサギが隠れている茂みを見る。
『あら、貴方もきづいていたの？』
まぁ元々知ってるしな
『うん、十六夜だって気付いているはずだよ・・・・』
十六夜を見ると・・・・
『当然。かくれんぼじゃ負けなしだぜ？そっちの猫を抱いてる奴も気付いていたんだろう？』
十六夜はそう言って春日部を見る
『風上に立たれたら嫌でもわかる』
風上って何だろう☒
そんな事を思っていると、軽薄そうに笑いながら春日部を見ていた・・・・
怖いな・・・・
『・・・　へぇ？面白いなお前』
そう言いながら問題児三人は理不尽な招待を受けた腹いせに殺気こ籠った冷ややかな視線を黒ウサギに向ける。黒ウサギはやや怯んだみたいだな・・・・　ザマァ
『や、やだなぁ御４人様。そんな狼みたいに怖い顔で見られると黒ウサギは死んじゃい

ますよ？ええ、ええ、古来より孤独と狼はウサギの天敵でございます。そんな黒ウサギの脆弱な心臓に免じてここは一つ穏便に御話しを聞いていただけたら嬉しいでございますヨ？』

無理だろうな、問題児達にわ・・・・

『断る』

『却下』

『お断りします』

ほらな・・・・

『あっは、取りつくシマも無いですね♪』

バンザーイ、と降参のポーズをとる黒ウサギ。

しかしその目は冷静に値札をしている感じだ・・・・ あんまり好きじゃ無いなその見られかた。

耀が黒ウサギの隣に行き・・・・ これは始まったな哀れ黒ウサギよ・・・・

『えい』

『フギャー！』

あれ絶対痛いよな・・・・ アニメで見るより酷いな。

『ちょ、ちょっとお待ちを！触るまでなら黙って受け入れますが、まさか、まさか初対面

で遠慮無用に黒ウサギの素敵耳を引き抜きに掛かるとは、どういう了見ですか⁉?』
素敵耳‥‥　笑
『好奇心の為せる業』
『自由にも程があります!』
一理であるな‥‥　まぁ問題児だから
『へえ?このウサ耳って本物なのか?』
左右から引っ張ったら裂けるぞ‥‥
『‥‥‥‥。じゃあ私も』
流石問題児達遠慮がない‥‥　漢字連続8文字‥‥
そんな事を思って居ると、黒ウサギが助けてを目線を送ってくる‥‥
問題児達も俺を見る‥‥　ここはノルべきだよな。
『十六夜ウサギの尻尾って凄く柔らかいらしいぜ‥‥　笑』
俺がニャーって笑うと、十六夜もニャっとして‥‥　黒ウサギの言葉にならない悲鳴を上げ、その絶叫は近隣に木霊した‥‥
哀れ黒ウサギ安らかに眠れ

ジン君はパシリなのか？はい

『あ、あり得ない。あり得ないのですよ。まさか話を聞いてもらうために小一時間も消費してしまうとは。きっと学級崩壊このような状況を言うに違いないのデス』
『黒ウサギ早く進めて』
　本当いつまで遊べば気がすむんだよ黒ウサギわ・・・・
『元はと言えば谷郷さんが十六夜さんに余計な事を言わなければｙｕ・・・・』
『『良いからさっさと進めろ（黒ウサギ）』』
　うん、綺麗にハモったな・・・・
　黒ウサギが若干泣いているのは、気にしちゃ駄目だな・・・・　何かごめん
『それではいいですか（割愛）』
　長いんだよねここ無駄に・・・・
『この世界は・・・・・・・　面白いか？』
　面白いだろうね、てかすでに十六夜達の会話が面白いから・・・・
『Ｙｅｓ。ギフトゲームは人を超えた者たちだけが参加できる神魔の遊戯。箱庭の世界は外界より格段に面白いと、黒ウサギは保証いたします♪』

後、一つだけ聞きたい事があるんだよね‥‥　だいたい全部分かってるからわざと聞こう

『ねぇ黒ウサギ』

問題児達も黒ウサギも一斉にこっちを見る‥‥　何か緊張するな

『何でしょう?黒ウサギが知ってる範囲内の事ならお答え出来ますが?』

スリーサイズが凄く気になるが今は良いか‥‥

『いや、あのさ神魔って言うぐらいならさやっぱり天使とかもいたりするのかな?』

原作は読んでいたが、天使が出てきた記憶がない‥‥

『天使ですカ?ええ、いますよ』

いるんだ、俺悪魔だけど大丈夫だよね‥‥　怖いわ

『何で天使が居るか居ないか何て聞いたんだ?』

十六夜に怪しい目で見られる、本当感が良いな十六夜わ‥‥

確かに俺は悪魔だかれって言うのもあるけどやっぱり一番は‥‥

『天使って凄く可愛いってイメージがあるからさ、出来れはお友達になりたいなって』

あれ?何でだろう凄く冷ややかな目で見られている気がする‥‥

『龍お前面白いな』

褒められたのか?

『ありがとう?』
　いちようお礼をいっておこう
『谷郷君貴方嫌味って言葉を知らないの?』
　え?嫌味だったの?
『酷いよ十六夜‥‥』
『ヤハハ、まぁ落ち込むな』
＊
　場所は箱庭２１０５３８０外門。ペリベット通り
『ジン坊っちゃーン!新しい方を連れて来ましたよー!』
『おかえり、黒ウサギ。そちらの女性２人が?』
『はいな、こちらの御４人様が‥‥』
　クルリと振り返り、カチンと固まる黒ウサギ‥‥‥‥　俳句ぽいな
『え、あれ?もう２人いませんでしたっけ?ちょっと目つきが悪くて、かなり口が悪くて、全身から俺問題児!ってオーラ放っている殿方と赤髪で凄くイケメンなのに、少し抜けている殿方が?』
　赤髪でイケメン‥‥　良い響きだ
『十六夜君と谷郷君の事?十六夜君ならちょっと世界の果てを見に行くぜ!と言って駆

け出していったわよあっちの方に』
　あっちの方にと指す先は例の世界の果て‥‥
『何で止めてくれなかったんですか!』
『止めてくれるなよって言われたもの』
『ならどうして黒ウサギに教えてくれなかったのですか⁉?』
『黒ウサギには言うなよって言われたから』
『嘘です、絶対嘘です! 実は面倒くさかっただけでしょう御2人さん!』
『『うん』』
　ガクリと前のめりに倒れる。
『で、谷郷さんは何故⁉?』
『谷郷君なら、便乗って言って何処かに行ったわ』
　そんな事を話していると、ジンは蒼白になって叫んだ
『た、大変です! 世界の果てにはギフトゲームのために野放しにされている幻獣が』
　てか、まずそんな危ない所に呼び出すなよ‥‥
『幻獣?』
『は、はい。ギフトを持った獣を指す言葉で、特に世界の果て付近にはかなり強力なギフトを持ったものがいます。出くわせば最後、とても人間では太刀打ち出来ません!』

『あら、それは残念。もう彼らはゲームオーバー？』
『ゲーム開始前にゲームオーバー？‥‥　斬新？』
　黒ウサギはため息を着きなが立ち上がる
『はあ‥‥　ジン坊っちゃん。申し訳ありませんが、御２人様のご案内をお願いしてもよろしいでしょうか？』
『分かった黒ウサギはどうするの？』
『問題児達を捕まえに参ります。事のついでに　箱庭の貴族と謳われるこのウサギを馬鹿にしたこ、骨と髄まで後悔させてやります』
　そう言うと黒ウサギは髪を淡い緋色に染めていく。
『一刻程で戻ります！皆さんはゆっくりと箱庭ライフをご堪能ございませ！』
　そして、黒ウサギは消えて行った

思春期の迷子程面倒な物はない、そう

今俺はとても困っている、何故困っているかと言うと実は十六夜が迷子なのだ・・・・
世界の果てに行ってくるとか言うから、追いかけてみたら十六夜はもう何処にも居ないのだ、高校生なのに迷子は無いだろ十六夜（涙）
でも、十六夜は第三宇宙速度とやらで走れるらしい？よくわからないのでググってみたら、秒速１６．７ｋｍらしい何か凄く中途半端な気がする。
『どうでも良いが腹減ったな』
よし、狩るか・・・・　周りに居るのは、ペガサスに麒麟に黒ウサギ・・・・
よし、今日はウサギ鍋だな』
『この、御馬鹿様!!!!』
あれ？ハリセン!!来ないな？身構えた俺が馬鹿みたいじゃあ無いか・・・・
あ!?
『黒ウサギ、イメチェンしたのか？』
ここはボケ倒すべきだよな・・・・

『違いますヨ』
　あれ？何か反応が？
『そんな事より、谷郷さん十六夜さんを知りませんか？』
　あぁ、十六夜ね～
『十六夜なら迷子だよ』
『へ？何を言っているのですか？』
『だから、（説明中）って事だから今十六夜は迷子だよ・・・・』
　本当に十六夜は駄目だな・・・・
『いや、迷子なのは確実に谷郷さんでわ？』
『何を言っているのかな黒ウサギは迷子になるわけ無いじゃあん、俺は中３ですよ』
　十六夜じゃああるまいし・・・・
『・・・・・・　そ、そうですか』
　そう、分かれば良い・・・・
『そんな事より、十六夜探さないと駄目だよ迷子は可哀想だから・・・・』
『そ、そうでした黒ウサギは今から十六夜さんの所に行きますが、谷郷さんはどうします？』
『うん、じゃあ俺も行くぜ！』

『はい、では行きましょ（このまま迷子ではこちらが困るのですヨ）』

＊

『おーい、十六夜』

やっと見つけた、迷子は探すの大変だな・・・

『おう、龍か着いてきたのか迷子にならなかったのか?と黒ウサギだよな、何だ?グレたのか?』

誰が迷子だよ・・・

『迷子は十六夜だろが、あと黒ウサギはイメチェンだよ』

『・・・・・・・・・・・は?谷郷は何を言ってるんだ?おい黒ウサギ何か知らないか?』

『それはですね、十六夜さん（コソコソ）って事何ですヨ』

ん?コソコソ何話してんだ

『ヤハハ、思春期の迷子程面倒なのはないってことだな』

十六夜は何を言っているんだ?

『そうなんですヨって十六夜さんは何処まで行ってるんですか!?』

『何言ってんだ黒ウサギ、十六夜は世界の果てまで来てんだよ』

『そうだぞ黒ウサギ谷郷の言う通りだヤハハ』

黒ウサギついにボケ始めたのか?

『はぁ、まぁ十六夜さんが無事で良かったデス。水神のゲームに挑んだと聞いて肝を冷やしましたよ』
馬鹿だな黒ウサギ、挑んでるから・・・・
『水神？　あぁ、あれの事か？』
ほらな・・・・
『まだ・・・・・・・　まだ試練は終わってないぞ、小僧っ!!』
デカ!?てか怖い・・・・
『蛇神・・・・　！って、どうやったらこんなに怒らせられるんですか十六夜さん!?』
蛇神って言ったんだよな、文で見ると一瞬駄神に見える・・・・
てか、このシーン無駄に長いので
割愛
『くそ、今日はよく濡れる日だ。クリーニング代ぐらい出るんだよな黒ウサギ』
何かここだけ読むと・・・・　あれだな
『十六夜のギフトはギフトを無効にする系のやつだな多分』
とｏあるの幻想ｏ見たいだな・・・・
『何でそう思うんだ？』
お、何か疑ってんな？

『蛇神のギフトを殴るだけで消すの簡単じゃあなさそうだしな、だからギフト破壊系か無効系だろうと予測した（全部嘘です、原作知識があるから言える事です）』
『なるほどな』
　案外すぐ納得してくれたな・・・
『十六夜黒ウサギが動かないけどどうしたんだろう？』
『おい、どうした？ぼーっとしてると胸とか脚とか揉むぞ？』
　これ・・・　顔とかが良くないとうったいられるぞ・・・　体験談だヤハハ
『２００年守った貞操？うわ、超傷つけたい』
　これ・・・　顔とかがｙｕ（二回目）
『お馬鹿⁉？いいえ、お馬鹿!!』
　疑問から確信に変えたな・・・　伝わりずらいはこの駄目ウサギ』
『駄目ウサギとは何です!?駄目ウサギとは☒！』
　あ、やべ
『ごめん、口が滑った』
　あれ？手が滑っただっけ？
『まぁいいですヨ、それよりも十六夜さんはギフトゲームに勝ったので何か凄い物を貰えるはずデス。これで私達のコミュニティは今より力を付ける事が出来ます♪』

あ、墓穴掘ったな・・・・

俺は十六夜を見ながら、頷くそうすると十六夜は黒ウサギの前に立つ

『オマエ、何か決定的な事ずっと隠しているよな？』

ストライク・・・・ 黒ウサギアウト!!

・・・・ 何言ってんだ俺？

てか、また話だけなので

割愛

『いいな、それ』

やっと話終わった・・・・

『・・・・ は？』

『ＨＡ？じゃねぇよ。協力するって言っているんだ。もっと喜べ黒ウサギ。だか、それは俺の答えであって龍の答えじゃ無いからなで、龍はどうすんだ？』

ここで俺にフルのかよ・・・・

『俺は好きな人（レティシア）が居るから黒ウサギのコミュニティに入るよ』

『龍の好きな人か、ヤハハ誰だ？春日部か？お嬢様か？』

レティシアっていっちゃ駄目だから、ここはボケるべきだよな。

『十六夜・・・・ 俺が好きなのはお前だよ』

『ヤハハ、俺もだぜ』
お、乗ってくれたなあとは
『こ、この御馬鹿様!!!』
『冗談だよなぁ十六夜』
『ヤハハあたり前だろ』
まぁもう帰ろう疲れた。
あ!?ジン君が最初で最後のボケるところ見るの忘れてた、あの鳥合の衆のってやつ、クソ!!!

星霊は見た目によらず強い、確かに

『何でフォレスガロに喧嘩売る事になったのですか⁉?』『しかも明日⁉?』『一体どんな心算があってのことですか!』『聞いているのですか3人とも!!』

『『『ムシャクシャしてやった。今は反省しています（していません）』』』

乗ってみた‥‥

『黙らっしゃい!!!!!って谷郷さんは関係ありません‼?』

キレが良くなったな‥‥

『別にいいじゃねぇか。見境なく選んで喧嘩売ったわけじゃないんだから許してやれよ』

『そうだよ、それにそこに俺が居なくて良かったじゃあないか‥‥』

俺にも良心はあるからな‥‥　多分

『ヤハハ、何だ龍怒ってんのか?お前でも怒るんだな』

そうじゃなくて‥‥

『いや、俺虎恐怖症だからさ‥‥』

虎怖い（ネタです）

『そうか、何か悪りーな』
（ネタです）
あ、そろそろレティシアに会える
俺は宣言するルイオスと13番目の時超真面目にシリアスにいく！
そんな事を心で誓っていると……
『谷郷さん行きますヨ』
サウザンドアイズか白夜叉も爺口調辞めれば可愛いんだけどな……
浴衣好きだし（個人的趣味）
『桜の木……　ではないわよね？花弁の形が違うし、真夏になっても咲き続けているはずがないもの』
『いやまだ初夏になったばっかりだろ？』
『……　？今は秋だったと思うけど』
これは、立体交差平行世界論を言える機会だな黒ウサギが言う前にゆうか……
『皆さんはそれぞれ違う世界から召喚されているからデス』
『へぇ？パラレルワールドってやつか？』
今だ!!!
!!!
『違うよ、十六夜正しくは立体交差平行ちぇ界論って言うんだよ……　なんか穴があった

ら入りたい』

噛んだよ俺‥‥

『谷郷さんって意外に知能派なのですか?噛んでましたけど‥‥』

『あたり前だろ俺頭良いから、あと噛んだのはしょうがない‥‥』

(原作知識があるからです)

お、あれがサウザンドアイズだな凄く綺麗だ‥‥ 店員さん

『まっ』

俺店員観察してよ、美人だし‥‥

『ほほう。ではどこのノーネーム様でしょう。良かったら旗印を確認させていただいてもよろしいでしょうか?』

ちょっとここで乱入‥‥

『店員さん入れて下さい、お願い』

手を握り、こちらに引き寄せながら多分揺れるだろうな‥‥ ちなみに格好良いから出来ただけです、格好良く無いと罪に問われます(体験談)

『入って‥‥ 駄目です』

『『『揺れたな』』』

問題達と綺麗にハモった

『揺れてません‼?』
お、来たな‥‥
『いぃぃぃやほおぉぉぉぉぉお!久しぶりだ黒ウサギイィィィィ!』
今思ったんだけど、この白い髪って全部しらが?‥‥‥‥‥ な訳無いよな多分
十六夜達は凄くびっくりしている。
俺も知らなかったらそんな感じだと思う‥‥
そう思っていると十六夜が
『おい店員。この店にはドッキリサービスがあるのか?なら俺も別バージョンで是非』
別バージョンってどんなの頼むんだろう、凄くきになる
『ありません』
ここはやはり乗るか
『俺は今とまったく同んなじなのが良い』
『龍まさかお前ロリコンだったのか?』
は、馬鹿言っちゃいけないな
『俺はロリコンじゃない、ただ幼女が好きなだけだ!!』
『龍そこまで堂々と言うとは、ヤハハ憧れるゼ』
そんな感じの俺の性癖暴露が終わったら…

『白夜叉様!?・どうして貴方がこんな下層に!?』
　この子本当に太陽の支配権もってる人なのか？・・・・　確かに凄く明るいが
『てい』
　十六夜良かったな白夜叉の心が広くて、広く無かった・・・・　死んでるぞ
　そんな事を思っていると白夜叉の私室に通してくれる所まで話が進んでいた・・・・
（ただ単に面倒くさかっただけ）
『超巨大タマネギ？』
『いえ、超巨大バームクーヘンでは無いかし』
　久遠の時代にもバームクーヘン会ったんだ・・・・
『そうだな。どちらかと言えばバームクーヘンだ』
　今思い出した、飯食って無いな・・・・
『あんまりバームクーヘンは好きじゃないな、山田君ぐらい好きじゃない、でもタマネギかバームクーヘンだとバームクーヘンかな・・・・』
『ふふ、うまいこと例える。しかし少年山田とは誰なだ？』
　あいつは中1の時の俺を・・・・
『ごめん、あんまり触れないで・・・・』
『そうか、話しがずれてしまったの・・・・』

話しが長いので割愛
『抜け目ない童達だ。依頼しておきながら、私にギフトゲームで挑むと?』
俺は売って無いぞ…　多分サタンの力を解放すれば勝てると思う、だけどサタンの力はノッキングで封印してるからな…　使う時はルイオスの時って心に決めてるし
『え?ちょっと御3人様⁉?』
いやーこれで3人とも白夜叉に問答無用で殺されたら笑うんだけどな…
『よいよ黒ウサギ。私も遊び相手には常に飢えている』
3人でかかって行っても遊び相手にすらならないだろうが…
『ノリがいいわね。そういうの好きよ』
『ふふ、そうか。しかし、ゲームの前に一つ確認しておく事がある』
『なんだ?』
いつもアニメ見てて思った、多分酔うだろうなって…
『おんしらが望むのは挑戦かもしくは決闘か?』
目の前が爆発的に変わっていく…
それと同時に俺の気分も爆発的に変わっていく…　やばい
『なっ…』
十六夜がビックリしてる…　俺もビックリここまで酔うなんて

てか白夜叉と十六夜が何か話しているがまったく聞こえない・・・・

『そこにいる少年よ、試練と決闘どちらを選ぶ?』

はぁ落ち着いた・・・・

『俺と決闘は辞めておけ、死人がでるぞ』

俺がそう言うと皆驚いた顔をする

『な!?谷郷さんいますぐ謝って下さい』

『良い黒ウサギ、して少年誰が死ぬのじゃ?』

白夜叉は戦闘態勢に入っている若干十六夜達も俺を擬ししている

『俺だ!!!』

『『『『『お前かよ』』』』』

凄く綺麗にハモった・・・・ てか皆口調崩れてますよ。

『つまり、少年も試練で良いと言うことだな』

『もちろん』

例のギフトゲームが開始される

まぁ原作どうりに終わった・・・・

で、今俺の目の前にはグリフォンがいる白夜叉達は春日部のギフトの話しをしているらしい・・・・ 俺ぼっち

『お前名前わ?』
　グリフォンに話しかける。
『な!?貴様も我らの言葉を理解するのか!?』
　悪魔の力でな‥‥
『あぁもちろんだ、で名前は?』
『我の名はグリーだ、よろしくな青年』
『俺の名前は夜叉龍よろしく』
　とそんなたわいも無い話しをしていると、皆が近づいて来て驚いている
『龍も話せたのかよ‥‥』
　十六夜は話せ無いんだよ
『うん、まぁな』
『ギフトの鑑定はどうするんだ黒ウサギ?』
　話しが進まないのでそっちの話しに無理やり持っていく‥‥
『げっ、よりによってギフト鑑定か。専門外どころか無関係もいいところなのに』
『どれどれ‥‥　ふむふむ‥‥　四人とも素養は良いの、おんしらは自分達のギフトをどこまで把握しておる?』
『企業秘密』

『右に同じ』
『以下同文』
『上に同じ』
『うぉぉぉぉぉい？いやまあ、仮にも対戦相手だったものにギフトを教えるのが怖いのは分かるが、それじゃあ話しが進まんだろうに』
『別に鑑定なんていらねぇよ。人に値札貼られるのは趣味じゃない』
てか、そんな趣味の人間いるか？
『ふむ。何せよ何か渡しておかなければな、ちょいと贅沢な代物だか、コミュニティ復興の前祝いとしては丁度良かろう』
手を叩く
目の前にカードが現れる
は!?これは乗らなければならないな
俺のカードの色は黒に文字が白凄く見やす（サタンのギフトは封印してあるから見えないです）
『ギフトカード！』
『お中元？』
『お歳暮？』

『お年玉？』
『免許証？』
『違いますよ！というかなんで皆さんそんな息が合ってるんです!?』
　割愛させていただきます
『谷郷さんのギフトってなんでした？』
　俺のは
『ノッキングマスターぐらいかな』
　次郎が着いていない
『なんですか？そのノッキングって？』
　面倒だから・・・・
『分かってたら使っているわ・・・・』
　まぁそんな事を話していると白夜叉が真剣に魔王に殺されって言ってきた・・・・　ペストになら殺されても良いや
　結局その後すぐに店を出た

耀と始めて喋った・・・　頑張る

　白夜叉とのゲームを終え、噴水広場を越えて四人は半刻ほど歩いた後、ノーネームの住区画の門前に着いた。
『この中が我々のコミュニティでございます。しかし本拠の館は入口から更に歩かねばならいので御容赦ください。この近辺はまだ戦いの名残がありますので・・・』
　凄い事になってんだよな・・・
『戦いの名残？噂の魔王って素敵ネーミングな奴との戦いか？』
　素敵が本当に多いよな
『は、はい』
『ちょうどいいわ。箱庭最悪の天災が残した傷跡、見せてもらおうかしら』
　絶対キレてるこの人、怖わいよ美人だから・・・
『っ、これは・・・　⁉？』
　これは凄いね・・・　何が凄いって小川さんぐらい凄いよ
『おい、黒ウサギ。魔王のギフトゲームがあったのは　今から何百年前のはなしだ？』
『僅か三年前でございます』

三年前でこれって凄いな、何が凄ｉｅ....（二回目）
『それじゃあ、まるで魔王は時間を操る見たいだね』
『....断言するぜ。どんな力がぶつかっても、こんな壊れ方はあり得ない。この木造の崩れ方なんて、龍が言った見たいに時間を操らないと絶対に出来ない。』
十六夜は冷や汗を流してるな....
はっきり言ってサタンの力だけで魔王連合軍に勝てるか？
多分きついよな
『....魔王とのゲームはそれほどの未知の戦いだったのでございます、仲間達もコミュニティから、箱庭から去って行きました』
コミュニティって何故入れたんだろう？
『魔王か。はっ、いいぜいいぜいいなオイ。想像以上に面白そうじゃねえか....！』
あれ？確かガルドの血レティシア吸うんだよな....何だろこの敗北感....
＝＝＝
ノーネーム水門前
子供達が水路を掃除している
『あ、みなさん！水路と貯水池の準備は調っています！』

ヤベェたくさんの幼ｊｏ・・・・　子供が興ｆｎ・・・・　しないじゃないか（汗

『ねえねえ、新しい人達って誰？』

『強いの⁉？カッコいい⁉？』

はははは、お兄さんはカッコ良いよ

『ＹＥＳ！とても強くて可愛い人達ですよ！皆に紹介するから一列に並んでくださいね』

俺は人ではありまちぇんー、まぁノッキングで封印してますから分からないだろうけど・・・・

子供達が一糸乱れぬ動きで横一列に並ぶ。中には猫耳や狐耳の少年少女前を向け、揺れる炎天すら・・・・

にしても、まぁ沢山の幼ｊｏ・・・・　ロリがうん・・・・

『『『『『よろしくお願いします！』』』』』

キーン、と耳鳴りがするほどの大声で２０人前後の子供達が叫ぶ。

『ハハ、元気がいいじゃないねえか』

『そ、そうね』

『よろしくね‼？』

十六夜も俺と同族なのかな・・・・

『さて、自己紹介も終わりました！それでは水樹を植えましょう！黒ウサギが台座に根を張らせるので、十六夜さんのギフトカードから出してくれますか？』
『あいよ』
　春日部は石垣に立ちながら物珍しそうに辺りを見回す。
『大きい貯水池だね。ちょっとした湖ぐらいあるよ』
『確かに凄いよね、魔王に襲われる前がどれだけデカイコミュニティかわかるよな』
『うん、確かに』
　春日部と始めて喋ったかもしれない....　結構可愛いよね
『それでは苗の紐を解いて根を張ります！十六夜さんは屋敷への水門を開けてください！』
　十六夜は貯水池に下りて水門を開ける。黒ウサギが苗の紐を解くと、根を包んでいた布から大波のような水が溢れ返り、激流となって貯水池を埋めていった。
『ちょ、少しはマテやゴラァ‼？流石に今日はこれ以上濡れたくねえぞオイ！』
　今日一日、散々ずぶ濡れになった十六夜は慌てて石垣まで....　来ようとしたので水の中に突き落とす。
『オイ、コラ龍ふざけるな‼？』
『馬鹿が！落とされるの方が悪いんだよ....』

と、俺が言うと十六夜が俺の腕を掴み水の中に突き落とす・・・・　ヤベェ!?

『ちょ!!?十六夜マジ溺れルボボォ・・・・』

足つかなマジでやばい・・・・

使うか

『水中ノッキング!!?』

と、俺が言うと貯水池の水がまるで凍ったように止まり俺がそこから出てくる・・・・

『おい、十六夜マジ溺れたから!!?』

そんな事を良いながらノッキングを解く、水がまるで時が動き出したように動き出す・・・・

『龍お前凄いな!!?水を止めるってどうやったんだよ?』

『そうですネ、黒ウサギも気になりますネ』

『私も気になるは』

『私も』

皆興味津々だなおい

『ノッキングだよ、大きな衝撃を与え生物や物の動きを止める特殊な技法だよ・・・・』

本当は普通生物にしか出来ないんだけどね、ノッキングを完全に使えるようにしてあるからね・・・・

『『『チートだな・・・・　』』』
　おい、口調が
『そう言えば御チビには悪いが、俺が認めない限りはリーダーなんて呼ばねえぜ？この水樹だって気が向いたから貰ってきただけだ。コミュニティの為、なんてつもりはさらさらない』
　ジンは言葉に詰まる。
『俺もそれは同意見だな・・・・』
　レティシアも目標だけど、つまらないならここに居る必要性だよね・・・・
『僕らは打倒魔王を掲げたコミュニティです。何時までも黒ウサギに頼るつもりはありません。次のギフトゲームで・・・・・・・・　それを証明します』
『そうかい。期待してるぜ御チビ様』
『俺も期待してるよ、ジン君』
（始めてのギフトゲーム、ジンリーダー頑張れよ・・・・）
　今の俺かっこよすぎだな・・・・
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
＝＝＝＝

その夜は十六夜だった
『おーい‥‥　そろそろ決めてくれねえと、俺達が風呂に入れねぇだろうが』
本当に何かいるな‥‥　一般人じゃ分からないだろうね
『ねぇ、ここを襲うの？襲わないの？どっちなんだい⁉？』
ちょっとネタぽいな‥‥
呆れたように十六夜が石を投げる。
きたな、第三宇宙速度‥‥
爆発音が凄いな
『ど、どうしたんですか⁉？』
『侵入者っぽいぞ。例のフォレスガロの連中じゃねえか？』
空中からドサドサと落ちてくる黒い人影と瓦礫。
『な、なんというデタラメな力‥‥　！蛇神を倒したというのは本当の話だったのか』
『ああこれならガルドの奴のとゲームに勝てるかもしれない‥‥　！』
皆人間じゃないな‥‥　男がとか気持ち悪い‥‥
『おお？なんだお前ら、人間じゃねえのか？』
今さらかよ‥‥
『恥を忍んで頼む！我々のいえ、魔王の傘下であるコミュニティフォレスガロを完膚な

きまでに叩きつぶしてはいただけないでしょうか‼?』
『『嫌だね』』
　侵入者は絶句して固まっている。
『いちょう言っとくけど、人質な。もういないから。』
『なっ』
　お、口が開いたままだな
『龍さん‼?』
　十六夜が
『隠す必要あるのかよ。お前らが明日のギフトゲームに勝ったら全部知れ渡る事だろ?』
『そ、それでは、本当に人質は』
『その日に死んでるよ、十六夜眠いから寝るね』
『あいよ』
　そのあとは風呂に入り寝た....
　レティシアとデートする夢を見たまさか、予知夢か?